

## 「義仲・巴」出典付年表出典一覧

種別	出典	説明	翻刻が載っている叢書・史料集・論文や出版社
古記録類	たいき 台記	宇治左大臣藤原頼長の日記。『宇槐記』とも言う。保元の乱前後の撰閲家や当時の故実を知る上で優れた史料。	増補史料大成
	ひょうはんき 兵範記	平信範の日記。保元の乱の同時代史料。	
	せいかいがんしょう 清胤眼抄	平安時代後期の日記類から検非違使関係の記事を抄出した書。	群書類従
	ぎょくよう 玉葉	関白九条兼実の日記。現存の部分は長寛2年(1164)～建仁2年(1202)。	宮内庁書陵部「図書寮叢刊」、国書刊行会など
	さんかいき 山槐記	内大臣中山忠親の日記。書名の「山槐」とは忠親の家名「中山」と、大臣家の唐名(槐門)を合わせたものに由来する。	増補史料大成
	きっき 吉記	権大納言吉田経房の日記。	
	さんかいこうりょうぬきがきょう 三槐荒涼抜書要	『三槐記』と『荒涼記』からの抜書き。『三槐記』は『山槐記』を指し、内大臣となった中山忠親の日記。また『荒涼記』は藤原資季(藤原定能の孫)の日記。	櫻井陽子『『平家物語』本文考』(汲古書院、2013年)
古文書	いちかわもんじょ 市河文書	平安時代末から戦国時代に至る約400年間の市河氏の動向を記した信濃国を代表する武家文書。重要文化財に指定されている。	『平安遺文』
	ぜつろくついか 雑録追加	尊経閣文庫の旧蔵書で、石川県立図書館が所蔵する。甲州流兵学者の有沢永貞(1638-1715)・武貞(1682-1739)父子が書写した文書を集めた書物。	『加能史料』
	ほうさぶんこしょぞうかなざわぶんこほん 蓬左文庫所蔵金沢文庫本 さいみんようしゅう 家治しやうしほいもんじょ 『芥民要術』巻十紙背文書	かつて金沢文庫が所蔵し、現在は尾張徳川家の旧蔵書を伝える蓬左文庫が所蔵する。『芥民要術』は漢籍農書。	『鎌倉遺文』
	とうだいじもんじょ 東大寺文書	奈良東大寺に伝来した8世紀から19世紀にいたる古文書群。東大寺本坊伝来と院家・塔頭伝来の二様ある。総数12000点以上に及ぶ。	長村祥知「木曾義仲の発給文書」(『信濃』65-12、信濃史学会、2013年)
	とうだいじやくしんもんじょ 東大寺薬師院文書	東大寺文書のうち、寺務執行職を歴任した塔頭薬師院に伝来したもの。	
	もうりけぶんこえんようもの 毛利家文庫遠用物	萩藩(長州藩)の外様大名毛利家に伝来した文書群。	
	まえだほんぎょくしよくほうてんしほいもんじょ 前田本玉燭宝典紙背文書	『玉燭宝典』は、隋の時代に杜台卿によって作られた、年中行事を記した中国の書籍。尊経閣文庫に蔵する本は前田本と呼ばれ、重要文化財に指定されている。	今江廣道編『前田本『玉燭宝典』紙背文書とその研究』(統群書類従完成会、2002年)
	こうざんじもんじょ 高山寺文書	京都高山寺に伝わる文書。	『平安遺文』
編纂物	おすまかがみ 吾妻鏡	治承4年(1180)～文永3年(1266)までの幕府の事績を編年体で記す歴史書。編者・成立年とも未詳。北条氏が編纂に深く関与し、幕府の日記や寺社の記録、御家人諸家に伝来する文書等を資料に、幕府の実務にたずさわった奉行人らによって編纂されたとする説が有力。	新訂増補国史大系
	ひゃくれんしょう 百練抄	公家の日記などの諸記録を抜粋・編集した歴史書。鎌倉時代後期に成立したとみられる。編著者は不詳。	
	へいけものがたり 平家物語	作者未詳。單記物語。諸本あり。琵琶法師によって語り継がれる過程で多くの諸本を生む。それらは琵琶法師の台本の性格を持つ「語り本系」と、それ以外の「読み本系」に大別されている。	
	えんぎょうほん 延慶本	諸本中最古と考えられている「読み本系」	汲古書院、勉誠出版など
	かくいちほん 覚一本	「語り本系」(平家琵琶の名人だった検校覚一の奥書を持つ本)	日本古典文学全集、日本古典文学大系、武蔵野書院など
げんべいじょうすいき 源平盛衰記	「読み本系」平家物語諸本のうち、最大規模	新人物往来社「新定源平盛衰記」、三弥井書店「中世の文学」など	